

# ご挨拶



独立行政法人環境再生保全機構  
理事長 福井 光彦

平素は、環境行政及び地球環境基金事業にご協力を賜り、御礼申し上げます。

地球上では、二酸化炭素による温暖化、砂漠化や熱帯林の減少、生物多様性の損失など様々な環境問題が深刻化しています。

こうした中、気候変動枠組条約第21回締約国会議で採択されたパリ協定が2016年に発効しました。我が国も、2030年度には26%（2013年度比）、2050年には80%の温室効果ガスの排出削減を目指していますが、目標達成のためには抜本的な排出削減を可能とする革新的技術の開発だけでなく、目標達成に向けた国民の一層の努力が求められています。

また、2015年9月の「国連持続可能な開発サミット」において、2030年をターゲットとした持続可能な開発目標（SDGs）が採択されました。SDGsは、気候変動や持続可能な消費と生産など17の地球規模の課題解決に向けた目標を掲げ、持続可能な社会の実現を目指していますが、我が国も行政をはじめ、企業、NGO・NPOなどあらゆるセクターでSDGsに対応した取り組みが始まっています。

こうした状況のもと、我が国は、環境だけでなく経済や社会に関わる複合的な危機や課題に直面しているという認識に立ち、環境保全に関する総合的かつ長期的な施策の方向性を示す第五次環境基本計画を今年4月に閣議決定いたしました。基本計画では、課題解決においてパートナーシップの充実・強化や持続可能な地域づくりなどを重視しています。

こうした「気候変動への対応」、「SDGsへの取り組み」、「地域づくり等の強化」を推進していく上で、立場やセクターを超えた様々な主体の連携や長期的視点がますます大切となっており、次世代の担い手であるユースのみなさんの役割が重要となってきていることは言うまでもありません。

環境省、独立行政法人環境再生保全機構及び国連大学サステイナビリティ高等研究所では、2015年度から全国ユース環境活動発表大会を開催してきましたが、第4回目となる今回は、実際に活動内容を発表しあい全国大会への出場校を決定する地方大会を8カ所で開催することとしました。地域ごとに環境保全への志を同じくする高校生が交流する機会を設け、日頃の活動内容を披露しあい、同世代が行う活動から多くの気づき、学びを得ることを期待するものです。

今、高校生であるみなさんは、2030年には社会の第一線で活躍する世代になっています。大会への参加を通じて、ユース自らの行動が地球規模の目標達成と密接に結びついていることをより実感いただけるものと考えております。

皆様方におかれましては、本事業の趣旨をご理解いただき、積極的な参加をいただきますよう、お願い申し上げます。